

# 📖 わたしの書評



姓 (匿名、ペンネームでも可)	渡来 明
書籍名	若い読者のための 考古学史
著者	ブライアン・フェイガン 訳：広瀬恭子
出版社	すばる舎

書

評

世界各地の発掘に携わり、考古学の発展に貢献した古今の考古学者の業績や人柄、最近の考古学の状況など、考古学の歴史を40のエピソードにまとめている。

トロイアとシュリーマン、アッシリアとレイヤード、ラビリンズとエヴァンス、モヘンジョ・ダロとウィーラーなどの有名な発掘譚だけでなく、中央アジアを遺物収集のために駆け巡ったスタイン、女性考古学者の嚆矢となったベル、初期のアメリカ入植者の暮らしを明らかにしたケルソーなどについても当時の社会情勢などと合わせて紹介。

マウンドビルダー（北米）やグレートジンバブエ（アフリカ）など、あまりなじみのない遺跡の話や、最も古い初期のヒト属ホモ・ハビリスの発掘の話など人類史も遡る。

「お宝」の発見、金儲けのための無秩序な発掘で始まった考古学が、「発掘は遺跡の破壊、最後の手段」であるとの反省から、人類学、生物学、地質学などの学問と結びつき、近年は、リモートセンシングなどの新しい技術も活用し、過去の人々の暮らしを知り、歴史を残そうとする大きな視点へと変わっていることを訴えるものになっている。

考古学に興味のない人にも、読み物としても面白い、入門の一冊。

